

大林高士
現場へ行く

統一教会の野望

プロ野球「日本ハム」の上田利治監督が突然の辞任を申し出た。家族が統一教会に所属し、今週土曜発売の週刊誌にその件について取材を受け、悩み抜いての決断のことだが、この問題はすでに四年前の合同結婚式パーティーの際にも一部マスコミで話題になったことがある。しかし、当時は家族のことでもあり、タレントの桜田淳子、山崎浩子らの教団広告塔に報道の焦点が絞られていた。

「靈感商法の真相」なる本を出版した。中身を見れば、加害者にも三分の理、といった記述が並んでおり、何をいままらといった感が強いのだが、出版には教祖の文鮮明「写真①」や統一教会の並々ならぬ野望が見え隠れするのである。

文鮮明の血分けの儀式を立証した本が発売され、著者の朴正華(元文鮮明側近)が日本でも記者会見を開いて大きな話題となったことがある。しかし、昨年十一月、統一教会は朴に「私は裏切り者」その時サタンが私に入った」という、先の告発本を否定する本を出版させることに成功した。この裏では文鮮明を守るために巨額の金が朴に支払わ

いる(統一教会関係者)といわれるためだ。例えば、二年前のこと。「六マリアの悲劇」という

れたとうわさされているが、文の名譽を守るために統一教会信者はなんでもやり遂げるのである。



この七月三十日、ワシントンで統一教会のタミー組「世界平和家庭連合」(FWP)が創設された。野望に燃えているのだ。会にはフッシュ前大統領やフォード元大統領などが出席するほどの盛況ぶりだったという。

批判で統一教会の力は衰えたというのは大きな誤りだ。文はいまだ世界制覇の野望に燃えているのだ。それを裏づけるように、今月九日には、文の妻、韓鶴子「同②」が幕張メッセ

十一月には、ワシントンで「三百六十万組の巨大な合同結婚式」が行われる予定で、すでに日本からも準備代表団が訪れている。関係者の一人は「統一教会の一番の資金源は日本マネー」。

「統一教会の野望」という本を出版したんで、文鮮明の血分けの儀式を立証した本が発売され、著者の朴正華(元文鮮明側近)が日本でも記者会見を開いて大きな話題となったことがある。しかし、昨年十一月、統一教会は朴に「私は裏切り者」その時サタンが私に入った」という、先の告発本を否定する本を出版させることに成功した。この裏では文鮮明を守るために巨額の金が朴に支払わ

日韓トンネル開通へ
頼りはやはり日本マネー

で世界平和家庭連合の講演を行って、これを成功させるためには、ますます日本で靈感商法を行わねばならぬ。そのためにも、統一教会は靈感商法などとしてい

来年の合同結婚式では文が重大発表を行うと聞いています。これを成功させるためには、ますます日本で靈感商法を行わねばならぬ。そのためにも、統一教会は靈感商法などとしてい

「靈感商法」へ走る懸念

「統一教会」

(敬称略)